

短報

## 鳥取県岩美町におけるマルバアキグミの記録

清 末 幸 久<sup>\*</sup>

Records of *Elaeagnus umbellata* Thunb. var. *rotundifolia* Makino  
from Iwami-cho, Tottori Prefecture

Yukihisa Kiyosue<sup>†</sup>

鳥取県内では産地が知られていなかったマルバアキグミを鳥取県岩美郡岩美町内で確認したので、標本に基づいて報告する。

筆者は、2002年5月2日鳥取県岩美郡岩美町大羽尾の海岸近くでアキグミによく似たグミ属の植物を採取した。葉の表面に鱗状毛と星状毛が多く、互いに重なり合うほどの密度であること、葉身の形が丸く幅が広いことから、アキグミの範疇であるか疑問に思われた。花期の様子だけでは、同定に必要な特徴を十分把握できないため、採集のうえ個体がわかるようマーキングし、秋に再調査することにした。

同年秋、葉が十分な大きさになってから調査、採集した。標本を富山市科学文化センターで精査したところ、①葉の表面に鱗状毛がある。②結実する時期になっても、葉の鱗状毛、星状毛の脱落が少ない。③結実する時期に葉の表面がアキグミより白色がかる。④葉身の最大幅が25mmを越え卵円形～広楕円形である。これらの特徴より採集品をマルバアキグミと同定した。

マルバアキグミの採集地は、鳥取県岩美郡岩美町の中央部より日本海に突きだした羽尾岬の北東端に位置する東港付近である。マルバアキグミはヤブツバキ、トベラなどが茂った海岸植生からはずれた荒れ地で、周囲にはハマダイコン、ハマボッス、スズメノチャキヒなどの草本が見られる環境で生育していた。樹木はアキグミとマルバアキグミの2種で、植生高はマルバアキグミの約2mが最高であった。

また、近傍でもマルバアキグミを採集したので、そのデータを明らかにしておく。

証拠標本はすべて鳥取県立博物館に収蔵されている（〔 〕内は鳥取県立博物館標本番号）。また、結実期の標本は近傍で採集した個体も含めて富山市科学文化センターにも併せて収蔵されている。

*Elaeagnus umbellata* Thunb. var. *rotundifolia* Makino

和名 マルバアキグミ

鳥取県岩美郡岩美町大羽尾東港付近

2002年5月2日(花期) 清末幸久採集 [961-1001-024]

2002年9月29日(結実期) 清末幸久採集 [961-1001-022]

\*鳥取県立博物館(〒680-0011 鳥取市東町2-124)

Tottori Prefectural Museum, 2-124 Higashi-machi, Tottori-shi, 680-0011 Japan

近傍での採集記録(いずれも2002年9月29日, 清末幸久採集)

鳥取県岩美郡岩美町大羽尾天神橋付近, [961-1001-018]

日当りのよい露出した花崗岩の割れ目に生育

鳥取県岩美郡岩美町鴨ヶ磯海岸, [961-1001-015]

海へせり出した花崗岩上に生育

鳥取県鳥取市鳥取砂丘国民宿舎元駐車場, [961-1001-012]

日当りのよい砂を多く含む砂利地に生育

文末ではありますが, 標本を同定していただいた富山市科学文化センター主任学芸員の太田道人氏, 学芸員坂井奈緒子氏に記して感謝申し上げます。

#### 文献

杉本順一(1972) グミ科, 新日本樹木検索誌.pp334-338. 井上書店

高橋秀男(2000) グミ科, 山溪ハンディ図鑑4 樹に咲く花離弁花2 .pp556-587. 山と溪谷社

初山泰一(1989) グミ科, 日本の野生植物木本Ⅱ pp83-89. 平凡社

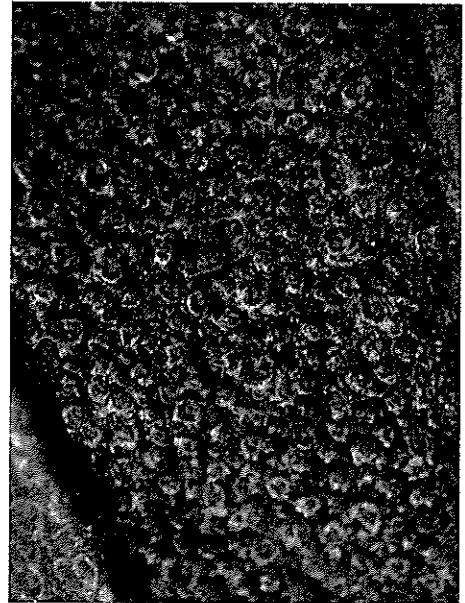


図1 マルバアキグミ(2002年5月2日) 右は葉の表面

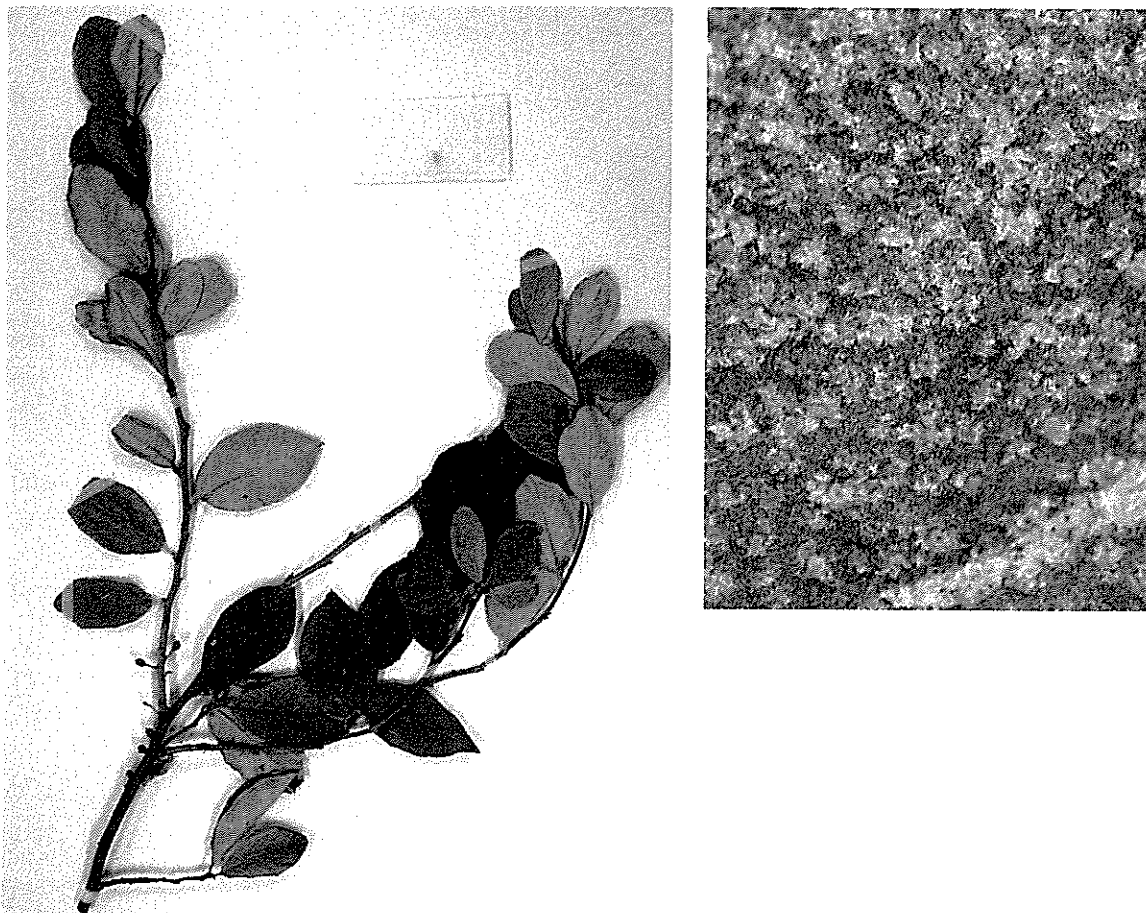


図2 マルバアキグミ(2002年9月29日) 図1と同じ個体 右は葉の表面